

働き方改革から働きがい改革へ

■ 秋葉・赤羽・池田の3名が、建設業界における働き方の変化や、未来への展望について語り合いました。

座談会

技術部 係長
赤羽 理夏(勤続27年)
日本文理大学 卒

技術部 係長
池田 麻生(勤続19年)
職業能力開発総合大学校 卒

技術部 係長
秋葉 幸輝(勤続22年)
千葉県立茂原工業高校 卒

「建設業界の働き方はどう変わった？」

秋葉: 建設業界って、昔は長時間労働が当たり前でしたよね？
赤羽さんの頃はどんな感じでした？

赤羽: そうですね。「1日は24時間ある」って言葉をよく聞きました。終電間際まで働くことも多かったし、有給も取りづらい環境でしたね。

池田: 私が入社した頃はそこまでではなかったですけど、仕事に慣れなくて残業は多かったです。女性社員は残業時間を抑えるような取り組みがあった記憶はあります。

「働き方の変化とリモートワーク」

秋葉: 今は随分変わりましたよね。有給も取りやすくなったし、技術部では社員のケガをきっかけにリモートワークが始まったんです。まさかコロナ禍でこんなに役立つとは思いませんでしたけど。

赤羽: リモートワークは本当に助かります。通勤時間がなくなるだけでも全然違いますし、家庭や介護との両立もできる。もし出社できなくても、家で仕事ができれば安心ですね。

「働きがい改革へ」

秋葉: 建設業界もDXが進んでいますけど、個々のモチベーションってすごく大切だと感じます。皆さんはどんなときに「働きがい」を感じますか？

赤羽: 私は、現場の職人さんが自分が作った図面を見ながら作業してくれているのを見た時に、働きがいを感じますね。特に、職長さんや担当の方と何度も打ち合わせを重ねて仕上げた図面が、実際に役立っているのを見ると、すごく嬉しいです。

池田: それ、分かります！私も現場から「ありがとう」と声をかけてもらえると、一生懸命取り組んだ甲斐があったなって思います。特に、図面や資料を工夫したことを理解してもらえると、努力が報われた気がしますね。

秋葉: なるほど。成果が見える瞬間って大事ですね。私はチームで協力して、難しい案件をやり切ったときに働きがいを感じます。特に、若手がベテランの経験を、ベテランが若手の発想を取り入れて成果が出ると、「いい組織だな」と思います。

赤羽: 若手のデジタル技術と、ベテランの経験が合わさると、本当に強いチームになりますね。これからの向井建設の未来が楽しみです。



現場での実地教育



新入社員への教育



BIM施工図「掘削工事」